

# 外国語現地実習体験記

- 留学先 : CDC ベルリン校 (ドイツ)
- 留学期間 : 2019年8月～9月 (4週間)
- 学部・学科 : 人文学部 ヨーロッパ文化学科
- 留学時の学年 : 2年



今回、私は夏季の外国語現地実習に参加しドイツのベルリンに1ヵ月滞在してきました。私にとってこれが初めての渡航でして、およそ12時間のフライトを経てベルリン・テーゲル空港に着いた時には疲れを忘れて、喜びと緊張感で満ち溢れていました。この日はタクシーで向かったホームステイ先でホストファミリーの歓迎を受け初日は終わりました。2日目はさっそくCDCへ初登校するのですが、慣れないドイツで1人で移動するのはそう簡単なことではなく迷いつつも何とかたどり着くことができました。CDCではまず語学力別にクラス分けがなされ、自分は初級クラスへ振り分けられました。クラスには15人ほどの様々な人が集められ、ロシア人やルワンダ人、中国人などの国籍の違い、19歳から40歳までの年齢の違いがある中、ドイツ語を学ぶという共通した目的でクラスメイトとなった彼らと1ヵ月間学習していくことになりました。授業は9時から始まり30分、15分の2回の休憩をはさんで1時半に終了しました。初回時に配布されたテキストに沿って文法の説明を受け、読み書き・聞く話すの練習をするのが基本的な授業内容で、先生が時々語彙力を試すミニゲームを出すこともありました。クラスメイトの人たちは積極的な方が多く、和気あいあいとした中で授業が進められてとても楽しかったのを覚えています。休憩時にはクラスメイトと会話することもしばしばありましたが、英語が不得意なこともありうまく会話できずに悔しい思いをしたことは、英語も勉強すべきだという教訓になりました。授業後はCDCの放課後プログラムに参加し語彙力を増やす授業を受けたり、博物館見学に出かけたりすることもあれば、友達とベルリン市内を観光することもありました。帰宅後は宿題を終わらせ、ホストファミリーとその日あったことなどを会話しながら夕食をとることが常でした。これが平日の過ごし方だったわけですが、週末はというと土曜日には観光か買い物、日曜日は毎回マウアーパークへ足を運び、そこで開催されているフリーマーケットやカラオケ大会などを見て過ごしていました。はじめは右も左もわからない異国の地で生活するのは大変なことでしたが、このような充実した日々を過ごしているうちにベルリンという街が気に入るようになりました。また言語の壁というのは薄いものではありませんでしたが、拙いドイツ語で話しても理解してくれようとする見知らぬ市民や店員、ホストファミリーの親切さには感謝しています。これも私がベルリンを気に入った理由の1つです。私がおっとドイツ語を、もちろん英語も話せたらどれだけよいか、そのことを今回とても強く感じました。正直な話、この外国語現地実習で得た最大の成果は外国語学習をより努力しようと動機付けられた



ことだと思っています。実際に、おそらく今後またドイツへ行くであろうその時までに向けて、帰国したその日からドイツ語を勉強し続けています。今回の外国語現地実習には以上のような有意義な経験ができたことから大変満足しています。